

はくととはくと

Shinkomonji Hospital

新小文字病院

2016.10

Vol.39

ご自由にお持ち帰り下さい

脳神経系の疾患と診療体制

全国から患者さんが来院

冬の感染症に備えよう①

感染管理認定看護師

病院の実力を示す指標・機能評価係数Ⅱ

門司地区で一番高い評価

大規模災害訓練を実施

本番に備えて

救急症例検討会を開催

救急対応能力向上を目指す

訪問リハビリのご案内

こんなことでお困りの方へ

埼玉県の新久喜総合病院奮戦記

グループ21番目の病院へ応援

かかりつけ医⑬

おおつかクリニック

トピックス・施設参加型研修

BLS 一次救命処置について

脳神経系の疾患と診療体制

脳神経センターの診療実績

2015年度の入院総数(延べ人数)は896名でした。なかでも、脳血管障害456名(内脳梗塞287名)が最多で、毎日のように脳卒中の患者さんが入院してこられます。また、当院の特色でもあります脳腫瘍の入院数は116名でした。増田センター長や高名な福島孝則先生の手術を希望して、全国から患者さんがおいでになられます。手術件数は全て合わせて252件でした。外来受診者総数は年間延べ9,010名で、脳に関する病気の大小を問わず、多くの患者さんの診療にあたっています。また、予防医学として脳ドック(年間1,229名)も行っており、病気の予防や早期発見にも取り組んでいます。これら全ての診療を、現在、増田センター長、私藤村、押方医師の常勤医師3名で行っています。

経験豊富な医師の対応で安心・安全な治療を

脳腫瘍や、難易度の高い脳卒中手術に関しては、増田センター長の指導の下、手術やその後の治療に当たっています。経験豊かなエキスパートの指導により、大きな合併症もなく、安全に治療が行えています。

超急性期疾患に24時間対応

脳卒中全般に関しては、押方医師と共に24時間対応しています。特に超急性期と言われる発症から8時間以内の脳梗塞に関しては、積極的に血栓溶解療法や血栓回収療法を行っています。最近では、地域の開業医の先生方のご協力もあり、超急性期脳梗塞の治療件数が増えています。これにより、劇的な症状の改善が得られ、従来の治療であれば長期のリハビリを要するような症状の方

血管内治療専門医も診療に当たる

増田、押方、藤村の常勤医師3名に加えて、血管内治療専門医である原田医師にも、福岡和白病院から定期的な診療に来て頂いています。手術では困難な脳動脈瘤のコイル塞栓術や、頸動脈狭窄症に対するステント留置術など、低侵襲な血管内治療を行って頂いています。

臨床研修医の指導に力を入れる

その他に臨床研修医の指導にも力を入れています。研修医の主戦場である夜間外来では、彼らが脳卒中患者の初期治療に携わることが少なくありません。診断、治療が最短で開始できるよう、毎日の症例を通して指導しています。

脳疾患は早期治療で早期解決を

最後に、読者の方へのお願いです。脳に関するお悩みは、早期受診で早期解決を！

脳卒中に限らず、脳に関する全ての疾患は、早期に診断をつけることで治療の選択肢や治療効果が高まります。そのためにも、何らかの症状にお困りの方は、早期の受診をお願いします。必要な検査は、可能な限りその日のうちに行います。また、実は病気がないのに不安を抱えている人もたくさんいると思います。病気のある無しに関わらず、全ての方の悩みに答えていけるよう、誠意を持って診察させていただきますので、お気軽にご相談ください。



脳神経センター長
増田 勉
徳島大学医学部 昭和52年卒
医学博士
日本脳神経外科学会専門医・指導医



脳神経外科部長
藤村 陽都
佐賀大学医学部 平成18年卒
日本脳神経外科学会専門医



脳神経外科医長
押方 章吾
久留米大学医学部 平成21年卒
日本脳神経外科学会専門医



脳神経外科研修医
石原 直貴
宮崎大学医学部 平成27年卒

冬の感染症に備えよう①

ノロウイルス感染症とは

ノロウイルスによる食中毒や感染性胃腸炎は冬場に本格的な流行を迎えますが、ノロウイルスに感染すると下痢、おう吐、吐き気、腹痛などを引き起こします。子どもや高齢者は重篤化しやすいので、特に注意し

ましよう。

ノロウイルスの流行時期

ノロウイルスは一年を通して発生しますが、特に冬期に流行します。1年間に発生したノロウイルスによる食中毒の約7割が冬季に発生し、大規模な食中毒になりやすい。

ノロウイルスの予防

(イ) ノロウイルスの主な感染経路は

- (1) 人からの感染と(2)食品からの感染があります。
- (ロ) ノロウイルスによる感染を防ぐポイント

(1) 手洗いの実施

特に食事の前、トイレの後、調理前後は石けんと流水による手洗いをを行う。

※アルコール消毒はノロウイルスにはあまり効果がないと言われています。

(2) 「人からの感染」を防ぐ

家庭内や集団で生活している施設でノロウイルスが発生した場合、感染した人の便や吐物からの二次汚染や、飛沫感染を予防する必要があります。また症状が治まっても約1ヶ月はウイルスが排出されるので、その間は対策が必要となります。

① 便や吐物の処理

(2) 食器、環境、リネン類などの処理

感染者が使ったものや嘔吐物がついたものは、他のものと分けて洗浄、消毒します。食器等は、食後すぐ塩素系消毒薬に十分浸し、消毒します。

(3) 「食品からの感染」を防ぐ

過去のノロウイルス食中毒の事例では、約7割で原因食品が特定できていません。

ウイルスに感染した食品取扱者を介して食品が汚染されたことが原因となっているケースも多いと考えられています。また、ノロウイルスに汚染された一枚貝を、生や加熱不足のまま食べることでも食中毒の原因となります。

① 加熱して食べる食材は中心部まで85℃で1分以上しっかり加熱が必要

② 調理器具や調理台は「消毒」して、いつも清潔に

ノロウイルス感染症の症状

潜伏期間(感染から発症までの時間)は24〜48時間です。

主な症状は吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、微熱です。通常、これらの症状が1〜2日間続いた後に治癒し、後遺症もありません。また、感染しても発症しない場合や、軽い風邪のような症状の場合もあります。このように、健康な方は軽症で回復しますが、子どもやお年寄りなどでは重症化したり、吐いた物を誤って気道に詰まらせて死亡することがありますので、特にご注意ください。



(引用参考文献)

- ①冬の感染症にご注意！～インフルエンザ&ノロウイルス特集～ 首相官邸ホームページ
- ②感染性胃腸炎(特にノロウイルス)について・厚生労働省ホームページ

《塩素消毒の使用方法》

| 200ppm | | 1000ppm | | 製品の濃度 |
|---------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------|
| 食器、カーテンなどの消毒や拭き取り | | 嘔吐物などの破棄 | | |
| 水の量 | 液の量 | 水の量 | 液の量 | 5~6% |
| 2.5L | 10ml | 500ml | 10ml | |
| 500mlペットボトル 4~5本 | ペットボトルのキャップ 2杯 | 500mlペットボトル 1本 | ペットボトルのキャップ 2杯 | |

※市販の「家庭用塩素系漂白剤」には5~6%の次亜塩素酸ナトリウムが含まれています。

病院の実力を示す指標 「機能評価係数Ⅱ」

門司地区で一番高い評価を受ける

新小文字病院はDPC対象病院ですが、その病院の実力を示す指標として「機能評価係数Ⅱ」と言われる指標があります。

- 複雑性指数(複雑な疾患の患者様を多く診察しているか?)
- 力パー率指数(様々な疾患に対応できる体制を整備しているか?)
- 救急医療指数(十分な医療スタッフを配置して、救急患者様を多く受け入れているか?)

等の7項目に、平成28年4月度の改定で新たに追加された「重症度指数」を含む8項目で算出されます。これらの「機能評価係数Ⅱ」の数値が大きい病院ほど高度な医療機能を備えているとみなされます。

平成28年4月時の機能評価係数ランキングで、新小文字病院は全国1446施設中446番、福岡県内では21番、北九州市門司区では一番高い評価を受けている病院です。

DPC対象病院とは

従来、医療費は診療行為一つ一つの「出来高払い」方式でしたが、「診断群分類別包括評価」というものを使用し、診断群分類(DPC (Diagnosis Procedure Combination))ごとに厚生労働省が定めた1日当たりの点数をもとに医療費を計算する「定額払い」方式を導入している病院のことです。尚、「定額払い」に加えて、手術やリハビリテーション、高額な処置などは出来高のまま残りますので、医療費の総額は「包括」と「出来高」の合計となります。

救急症例検討会

救急対応能力向上を目指す

恒例の救急症例検討会が平成28年6月に当病院の会議室で開催されました。救急症例検討会は、北九州市消防局や下関消防局の救急隊員の協力を得て例年3回開催されています。参加者も年々増加傾向を示していましたが、今回は病院関係者を含めて70名を超える関係者にお集まりいただき、会議室は人であふれる状態になりました。

今回の演題は、内科2題、外科1題、脳神経外科2題の計5題でした。内科の演題は、「めまいを主訴に来院した一例」と「酸素投与をどう考えるか」。外科は、「シートベルト損傷による外傷性小腸穿孔」。そして、脳神経外科は「遅発性外傷性脳出血に対して手術を行った一例」と「Time Loss Brain Loss」で、個々の演題について、スライドを使った講師方の熱い指導に会場も参加者もヒートアップ状態になっていました。特に現場で一刻を争って活動する救急隊員から現場に即した具体的な事例の質問が数多く出されたのに対し、講師方からの確かな指導が行われていました。



救急症例検討会の主な目的の一つである救急隊員の救急対応能力向上に十分に役立った有意義な検討会になった、と思われまます。

終了後の救急隊員のアンケートには、講師方へのお礼とともに検討会の継続開催希望がいくつも記入されていました。

大規模災害訓練

本番に備えて

臨場感あふれる第1回大規模災害訓練を7月23日に当院の1階ER・外傷センターで行いました。災害は九州自動車道(新門司IC)で4台トラック、大型バス、普通乗用車による多重事故が発生し、20名の傷病者が出ていたという想定で訓練を実施しました。

訓練には医師、看護師、事務部、医技部、リハビリなどから67名のスタッフが参加し、実際の傷病者の流れを把握するために模擬患者を設けて、全情報を把握、整理し、指示を出す災害対策本部、傷病者のトリアージを行う病院前トリアージ班、傷病者の症状に応じて対応を行う各応急救護班(赤・黄・緑)、傷病者の搬送班、設営後方ベッド班の各班に分かれて実施しました。

今回が初めての災害訓練でしたが、本部活動、患者搬入や傷病者対応では大きな混乱もなく進行しました。しかし、訓練では搬送患者の把握方法や移送動線の見直し、救護班医療材料の検討などの課題も多く見つかりましたので、今後は訓練を重ねて、二つ三つ改善したいと考えています。今回は、院内のみでの訓練でした。



が、今後の訓練は消防救急隊と合同の訓練を実施し、実際の災害時にも迅速に対応出来る態勢を作りたいと思います。

また、今後の訓練時にはさらに多くの職員を募り、院内全体で大規模災害に対応できるように取り組みたいと考えています。

訪問リハビリ始めませんか?

当院からご自宅へ退院された患者様だけではなく回復期病院を経てご自宅に退院された患者様や、ご自宅でお困りの方も対象にしています。地域のかかりつけ医や介護保険サービス事業所と連携を取りながらより良い在宅生活を支援しています。福祉用具や住宅改修などのアドバイスも致します。

こんなことでお困りの方

- 外来リハビリの期限が切れそう...
- 退院後もリハビリを続けたい
- 福祉用具や住宅改修のアドバイスが欲しい
- 通院が難しい
- 自宅で生活動作のリハビリをしたい

お問合せ先
新小文字病院リハビリテーション科
平日・土曜日 / 8時30分~17時
TEL / 093-391-1001 (代表)
FAX / 093-391-7765

訪問範囲: 新小文字病院から車で30分圏内
訪問リハビリスタッフ: PT2名、OT2名、ST1名



地域公民館での健康相談や門司港地区での産業医活動、門司学園中学・高等学校の学校医などの地域医療活動にも参加しております。

～かかりつけ医紹介⑬～

クリニックの特徴・特色と
病棟の概要を教えてください

私が今の場合にクリニックを移転開業し今年で10年が経ちました。先代の父の診療所から通算すると約半世紀の間、門司区栄町で診療を行っております。父も私も元々は外科医であり、外傷治療や小手術を行っておりますが、地域社会の高齢化や医療機関の機能の変化に伴い「かかりつけ医」として内科疾患を中心としたプライマリケアを行う比重が高くなってまいりました。また、多様化する高齢社会に対応するためデイケアと居宅支援事業所を併設し、医療から介護までの一貫したサービスの提供が出来るのが当院の特色です。

私が働いている3階西病棟は病床数50床で、脳神経外科と救急科の患者さんを主に看る病棟です。脳神経外科は脳腫瘍の手術や放射線治療、抗がん剤治療、脊椎の手術前後、脳動脈疾患などを看護しています。救急科では腸炎から交通外傷など多岐にわたる日々勉強する毎日を通じているつもりです。



(看護部副主任 田中綾子)

新久喜総合病院 奮戦記

一致団結し看護提供

私は、今年の4月より新小文字病院から新久喜総合病院へ転籍し、半年を経過しましたので、今日は当院についてご紹介をしたいと思います。

当院は埼玉県久喜市という埼玉県東部に位置し、茨城県と県境を接するところにあります。平成28年4月1日より埼玉県JAの経営から、グループ21番目の法人に変わり新久喜総合病院として、24時間365日体制で、救急を断らない病院へ生まれ変わりました。病床数は300床で急性期病棟と回復期病棟を備えた災害拠点病院です。

連病院から100人を超える看護師が当院へ応援に駆けつけています。初めて会うスタッフも同じ九州出身というだけで一致団結し、カマチグループの_attsホームな環境で毎日楽しく働いています。一方では九州とは少し違う様々な文化や思想を持つスタッフとの寄り合い所帯の多国籍軍を率いるリーダーとして日々奮戦しています。

切磋琢磨で日々成長
 新久喜総合病院での応援も残りわずかな日数になりました。当院の周りは広大な平地が続く、坂らしい坂を目にすることもなく、人口は15万人程度ですが、生活には何不自由もないところです。

発足間もない当院ですが、すでに市内とその周辺の中核の病院に育ち、地域の中では無くてはならない存在になっています。今では、月間に約500台の救急車の受け入れを行っています。病棟の立ち上げに際し、各地のグループの関連病院から応援が来ています。私の部署では5病棟からの10名と現地スタッフ15名の総勢25名で忙しい放射線科の業務をこなしています。ほぼ全員がお互いに初対面ではありませんが、学ぶべきところも多く、切磋琢磨して日々成長しながら業務を行っています。

私の応援期間は2か月間です。主に一般撮影検査、透視検査、術中イメージ検査等を担当していますが、病院が違えば検査の方法や考え方も様々であり、二つの方法や考え方にとらわれず、広い視野での行動が大切だと学びました。今回の経験を新小文字病院へ復帰後はぜひ活かしたいと思っています。



(放射線科 石原隆宏)

慣れない業務に
四苦八苦

新久喜総合病院に来て早二ヶ月が経ちました。初めての地、初めての一人暮らし、そして慣れない業務に日々四苦八苦しております。主にこちらでは、給与担当としての業務

務を行っておりますが、以前が資料管理室でのSPD業務でしたので、業務内容の毛色の違いに多少の困惑を覚えております。また、私生活におきましても、家事に面倒を感じ、疲れてしまふことが多々ありました。親のありがたさを感じる今日この頃です。

こちらに来た当初は、休日になるとそんな怠惰な日々を過ごしていました。が、プライベートの時間も充実したものにしたいとも考えておりましたので、先日、念願の東京デビューを果たしました。

仕事と私生活をよりよいものにしていくべく、故郷への思いを胸に秘めながら日々を過ごしていくつもりです。

(事務部 橋本武志)



新小文字病院との連携について

新小文字病院が門司に移転した事による最大の利点は救急医療の拠点が揃ったことです。当院は外科を標榜しているため外傷の患者さんが多く来院されます。顔面外傷などの専門的な技術が必要な場合や整形外科的な治療が必要な疾患の多くを新小文字病院に依頼しております。また、意識障害や麻痺などの脳血管疾患を疑う症例についても脳神経外科で迅速に対応していただいております。門司に唯一の呼吸器外科医が常勤していることも重要です。気胸や外傷などの緊急を要する疾患はもとより、胸部異常陰影の診断から内科的疾患の治療まで安心して紹介させていただいております。

地域の皆様へのメッセージを
願っています

いとならない年齢になりました。患者さんへ生活習慣病予防の指導をするにあたり、自身自身が健康でお手本となるような生活を維持していきたいと思っております。

外科疾患のみならず、「かかりつけ医」としてのプライマリケアを行う上でCT、X線検査、上部消化管内視鏡検査、超音波検査などの検査機器をそろえ質の高い医療を心がけていきたいと思っております。また、デイケア、居宅支援事業所も併設しており医療のみならず介護の面でも利用者の方のお役にたきたいと思っております。

今後の目標と仕事を
上げて、心がけている事

私は幼少時から怪我や病気で入院や手術を何度となく行ってきました。その経験を生かして患者さんの視点に立つての診療を心がけていきたいと思っております。また、自分自身もメタボリックシンドロームを気にしな



院長 おおつか しょうじ 大塚 祥司



| 診察時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----------------|---|---|---|---|---|---|
| 午前 8:30~12:30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 午後 14:00~18:00 | ○ | ○ | — | ○ | ○ | — |

医療法人 健栄会 おおつかクリニック
 診療科 一般外科、胃腸科、消化器科、呼吸器科、アレルギー科、リハビリテーション科
 〒801-0863 福岡県北九州市門司区栄町8-18
TEL 093-331-3088

基本方針

高度医療

学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。

総合医療

患者様と医療情報を共有し、急性期治療から早期リハビリ、在宅医療まで一貫した、患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。

地域医療

地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。

患者様の権利と責務

1. 平等な治療を受ける権利があります。

患者様は、その社会的・経済的地位、国籍、人種、宗教、年齢、病気の種類によって差別されず、平等な治療を受ける権利を持っています。

2. 治療を自己決定できる権利があります。

患者様は、医師による明確でわかりやすい言葉で十分な説明を受けた後で、治療を受ける権利、あるいは治療を受けることを拒む権利があります。

3. 情報を知る権利と情報を提供する責務があります。

患者様は、医師による診断・治療、または変わり得る治療方法・予後、今後予測される問題に関して知る権利を持っています。患者様は、自身の症状や健康に関する正確な情報を提供し、治療に積極的に参加する責務があります。

4. セカンドオピニオンを受ける権利とプライバシーが守られる権利があります。

患者様は、自分の医療内容に対して、医師と共同して選択する権利、他の医師からの意見・相談を得る権利、いかなる場合であっても人間的に扱われ、患者様自身の診療に関する全てのプライバシーに関して、万全の配慮を受ける権利を持っています。

5. 相談する権利があります。

患者様は、十分な情報を得、利用可能な財政的支援について相談する権利を持っています。

6. 良質な医療を速やかに受ける権利があります。

患者様は、効果的医療行為を速やかに行われることを要求する権利、継続的に支持、検討された質の高い医療を受ける権利を持っています。

7. 病院秩序を守る責務があります。

患者様は、全ての患者様が安全で良質な医療を受けられるように配慮して頂くとともに、職員が適切な医療を行うことを妨げないよう協力する責務があります。また、医療費を適正に支払う責務があります。

トピックス 施設参加型研修会(地域の医療・介護施設の職員を対象)

今年度の第3回目は「BLS 一次救命処置について②」をテーマに7月21日に当院の研修室で開催しました。参加者は10施設14名でした。

今回は、昨年の「同テーマ」の研修の際に参加者から「実技にかかる時間を長くして欲しい」との要望と参加者が増えると全員に実技を習得してもらうことが難しくなることなどを反省して、参加者を少人数に制限し、実技の時間を十分に確保できるよう30分間延長して実施しました。

また、昨年の研修で寄せられた質問を、今回も「解説方式」で講義をしましたが、実技後の説明でしたのでイメージも具体的になり理解しやすかったようです。

そのため質疑応答も活発にあり、「大変興味深い内容でした。実際に施設でおきた際に冷静に対処できるか、慌ててしまっただけではないかと不安に思っていました。今日習った事を施設に持ち帰り、

ミーティング時にスタッフ間で確認していきたいと思いました」などの感想を述べられていました。

研修会は3年目に入り、26年度は36施設204名でしたが、27年度は51施設366名で今年度も昨年度を上回る勢いで参加者が増えています。特に実技を伴う際の研修会は研修時間を通常より長く設定しますが、参加者を少人数にいたしますので、参加ご希望の方は早めにお申し込みください。



新小文字病院 平成28年度施設参加型研修会開催予定のご案内

| 実施予定日 | 研修テーマ | 講師 |
|-------------------|---|-------------------------|
| 11月17日(木) | 感染対策について2-② ①エプロン・手袋・マスクの着用方法 ②インフルエンザ・ノロウイルス対策 | 感染管理認定看護師 18時～19時30分 |
| 12月15日(木) | 知れば怖くなくなる嚥下のしくみ | 言語聴覚士 18時～19時30分 |
| 平成29年 1月19日(木) | 安全な食事介助を行う際のポイント | 言語聴覚士 18時～19時30分 |

(毎月第3木曜日・18時～19時 実践含む研修 18時～19時30分)※時間変更になる場合もあります。

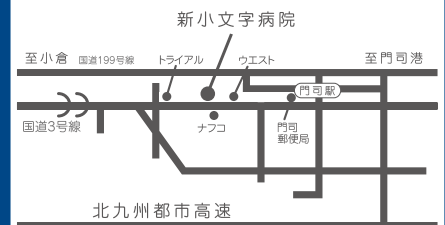
診療科目のご案内



内科・消化器内科・循環器内科
内分泌・糖尿病内科・呼吸器内科
外科・呼吸器外科・整形外科
リウマチ科・形成外科・皮膚科
泌尿器科・放射線科・脳神経外科
脊椎椎外科・救急科・病理診断科
リハビリテーション科・麻酔科



Access map



西鉄バス 新小文字病院前バス停で下車すぐ

駐車場のご案内

ご来院の際は400台
収容可能な駐車場をご利用ください。

- 外来者 / 手術付添 / お見舞い (家族・親戚)
4時間まで100円・以降1時間毎に200円
- 業者・お見舞い (一般)
1時間まで100円・以降1時間毎に200円

新小文字病院を
身近に感じる広報誌

Vol.39

2016年10月15日発行
企画：社会医療法人財団友会
新小文字病院 広報委員会
〒800-0057

北九州市門司区大里新町 2-5
TEL：093-391-1001
FAX：093-391-7001

E-mail：info@shinkomonji-hp.jp
http://www.shinkomonji-hp.jp

新小文字病院

検索

Design

NPO 法人列島会
創造館クリエイティブハウス 印刷事業部